

令和7年度 保育園における自己点検・自己評価 (岡山保育園)

A:十分理解している（できている）
B:理解している
C:努力が必要

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内 容	評価			意見・改善策
		A	B	C	
保 育 理 念 に つ い て	自国の保育理念・目標について理解し、職員会議や研修等で説明ができる。	16	7	1	○自国の保育理念・目標について、保育理念は、理解しているが説明を求められると説明できない 占と理解していないという結果がでた。改善策として、職員会で理念の確認や各保育室の壁に掲しながら保育理念の理解に努める意見があり、早急に取り組みたい。 ○保育過程を作成する際、保育所保育指針と保育理念・保育目標の関係を理解しているが、保育所保育指針を振り返りや作成時に活用しないことが多数報告として上がった。
	保育所保育指針と保育理念・保育目標の関係を理解し、保育課程を作成している。	16	4	4	
	保育の目標を達成するために「ねらい」があり「ねらい」をより具体的ににしたものが指導計画であり、保育の内容であることを理解している。	20	3	1	
	全体的な計画の作成及び指導計画の作成は全職員で検討し、かつ共通理解をはかっている。	20	3	1	
保 育 に つ い て	保育の計画に基づいて保育をし、保育内容の評価及び改善に努め、質の向上を図るとともに、社会的責任を果たさなければならないことを理解している。	19	3	2	○保育についての各項目では、高い評価が出ている。保育園が社会的責任を果たす役割や各年齢に合った指導計画の作成、保育の環境構成などでは、子ども達の生活の場が豊かになれるような取り組みが各クラスで実施できた。今後も継続して取り組んでいきたい。
	各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢にあった指導計画であり個々の発達にも留意したものを作成している。	15	5	4	
	人、物、場などの環境が相互に関連し合い、子どもの生活の場が豊かになるよう「保育の環境」に留意し保育を行っている。	20	3	1	
	保育所の特性である養護及び教育が一体的に展開されることを理解し、留意している。	20	3	1	
行 事 に つ い て	(1)行事の種類や実施回数は適切か	18	5	1	○ここ数年続いている猛暑に対して、行事への取り組みを再考し時期をずらすなどして対応していきたい。
	(2)行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか	22	2	0	
	(3)乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか	19	5	0	
	(4)計画・実施・評価・改善(P・D・C・Aサイクル)の体制をとっているか	17	2	5	
	(5)保護者の願いや意見を取り入れているか	22	2	0	

◎ 保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目		内 容	評価			意見・改善策
			A	B	C	
経営・組織	分掌・体制	(1)職務内容が明確で、協働できる体制になっている。	20	4	0	○専門リーダーや毎月の行事担当などの職務内容が明確に示されていることで、事前の準備等に 取り組みやすくなっている。
		(2) 職員の配置は選材・選所になっている。	18	6	0	
		(3)係や仕事の分担・割り当ては適切である。	17	4	3	
	運営	(1)各種会議を適切かつ効率的に進めている。	23	0	1	○会議や打ち合わせなど適切な回数をこなし職員間の連携は十分に図れている。
		(2)職員相互がそれぞれ全体的に立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設運営に関わっ 営っているか。	17	2	5	
		(3)打合せ回数、時間、内容は適切か	22	2	0	
	年齢別クラス運営	(1)年齢別・クラス目標は、全体的な計画や保育目標に基づいて設定している。	18	6	0	○5領域を意識した保育内容を各年齢ごとに取り組み保育を展開している。特に、異年齢間の交流(縦割り保育)は、全職員が楽しみに足り組む姿勢が見られる。今年度、掲げた「インクルーシブ保育」を継続して取り組みたい。
		(2) 年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定している。	17	7	0	
		(3) 同年齢及び異年齢間の効果的な活動の充実を図っている。	19	5	0	
		(4)意義や趣旨を理解したチーム保育を行っている。	16	5	3	
		(5) 評価、資料(諸記録)を累積し、保育の見直しにいかしている。 ＜PDCAサイクル＞	16	4	4	
	保健・安全指導	(1)保育所は、子ども一人一人と集団全体の健康及び安全の確保に努めなければならないことを 理解している。	22	2	0	保健衛生安全対策リーダーを中心に、感染症状況を掲示板に掲示し保護者へ情報発信に取り 当組んでいる。児童の避難訓練・交通安全指導は、計画的に実施することで防災意識を子ども達が意識するようになってきた。
		(2)避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施している。	22	0	2	
		(3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っている。	18	6	0	
		(4)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っている。	18	6	0	

項目		内 容	評価			意見・改善策
			A	B	C	
研究・研修	園内研修	(1) 研修の計画・運営は個別に策定するなど職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。	14	4	6	園内研修は、職員自ら題材を持ち合い、その中で保育として取り入れられるものを職員間で学習、発表の形で行っている。
		(2) 保育の課題等への共通理解や協働性を高め、保育所全体としての保育の質の向上に向けた職場内研修が充実している。	15	3	6	
	園外研修	(3) 外部研修については、情報提供が適切に行われ、階層別研修・職種別研修・テーマ研修等の取り組みが充実している。	19	5	0	園外研修は、職員の偏りがなく派遣することができた。受講後は、園内研修で研修報告を取り入れ、一人ひとり保育の質向上に繋がる取り組みができた。

項目		内 容	評価			意見・改善策
			A	B	C	
情報について		(1) 乳幼児や保護者に関する個人情報を守るように取り扱っている。	22	2	0	○個人情報の取り扱いは、法令等を遵守し適正に取り扱いがなされている。
		(2) 公文書收受、発送、処理を適切に行っている。	24	0	0	
施設・整備		(1) 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている。	23	1	0	○不審者等の対応項目では、知識として理解はしているが実際の場面に遭遇した時の対応に戸惑うとの意見が上がった。 ○園庭の環境について、子ども達が活用しやすいように遊具・用具等を整理保管できていることは、子どもの育ちの中に遊びを常に意識していることが表れている。
		(2) 遊具・用具等を活用しやすいように整理・保管している。	22	2	0	
		(3) 不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。	21	3	0	
		(4) 掲示版、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している。	23	1	0	
出納・経理		(1) 会計を適正かつ適切に処理している。	24			
開かれた保育園づくり	施設間交流・連携	(1) 他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっている。	23	0	1	今年度はデイサービス等の老人施設にて交流することが出来た。
		(2) 保育士同士が打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解をはかっているか。	15	6	3	
		(3) 日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしている。	24	0	0	
	園との連携・地域社会	(1) 保護者参観日等を設定している。	24	0	0	○猛暑の影響もあり運動会や夏祭りなど開催にあたっては、職員間で話し合いを持ち子どもたちの影響など考慮し、工夫も入れながら行ってきた。保育参観や作品展は年間行事に組み込まれていることもあり、開かれた保育所づくりの意識は高いので、今後も継続して取り組みたい。
		(2) 保護者の会との協力関係は適切。	24	0	0	
		(3) 地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れる取組がある。	17	1	6	

項目		内 容	評価			意見・改善策
			A	B	C	
開かれた保育園づくり	子育て支援の推進	(1) 地域の子育て支援を目的として、園庭開放や保育の相談等に取り組んでいるか	15	6	3	○早い長い夏、短い春と秋の為園庭開放に関しては、ほぼありませんでした。不審者対応や運動会や夏祭りなどコロナ以来開放した行事等になっていなかったこともあり、もっと地域の子育て支援につなげられるようにそのような行事を通して解放された園として根付かせていきたい。
		(2) 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	15	5	4	
		(3) 子育てについてなど、保護者を対象とした学習・研修の機会を設定しているか	15	4	5	
		(4) 職員による育児にかかる「子育て相談」は充実しているか	18	2	4	
	情報発信	(1) 園だより、クラス通信、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	24	0	0	○情報の発信は、ホームページや登陸園システムコードモンを活用して保護者へ情報発信に取り組めた。
		(2) 行事や子育て支援事業等を、地域自治会や児童施設、小学校に対して周知しているか。	10	4	10	
	外部評価	(1) 第三者評価を導入し、施設運営に反映している。				

《保育士の自己評価》

◎自己評価を実施することで、一人ひとりが保育士としての振り返りができている。日々の保育を客観的に振り替えることで、子どもの育ちに合った指導計画の見直しにも繋がっている。

◎保護者支援として、離乳食の相談を受けた。家庭の様子を聞き取り的確な助言が行えたことで自信につながった。

◎人・物・場が相互に関連し合っていることを意識した保育実践を行えている。

◎保育理念の理解度を高めていけるように次年度は、職務会、国内研修等で説明していきたい。

《保育評価》

◎保護者の意見を取り入れることで参加支援の役割機能を果たしている。

◎新型コロナウイルス感染症の影響で中止する行事もあったが、地域の協力を得ながら取り組めた行事があったことは地域連携の一步となった。

◎乳児から就学までの教育・保育を実践するに当たり、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱を基本にする。また、乳児における3つの視点、1歳児以上からの5領域を意識した保育の進め方を確認し年齢ごとの長期計画への整合性を確認し日々の保育活動の積み重ねが目標達成に繋がっていることを意識させていきたい。